



UQ-KU Project

九州大学 研究教育交流拠点

UQ-KU Project Newsletter

2017年10月号

クイーンズランド大学－九州大学研究教育交流プロジェクト

ニュースレター10月号

Q²PEC 2017

クイーンズランド大学は、第3回 Q²PEC (Qshu-Queensland Program for English Communication) の一環として、九州大学から19名の学生を受け入れました。九州大学の学生は、8月21日から9月29日までの期間、クイーンズランド大学に滞在しました。

新コロンボ計画 Mobility Project の助成を受けている UQ-JPIE プログラムを通じて、7月に九州大学を訪れたクイーンズランド大学の友人との再会に、九州大学の学生には喜びの笑顔が溢れていました。

滞在中、Q²PEC に参加した九州大学の学生は、クイーンズランド大学附属英語学校 (ICTE-UQ) において、工学部学生のために特別にカリキュラムが組まれた総合英語コースを受講しました。

この5週間の集中英語コースに加え、九州大学の学生は様々な研究室を訪問し、博士号を取得したばかりの研究者や大学院生によるプレゼンテーションを聴講しました。また、クイーンズランド大学機械鉱山工学部の最終学年の学生によるプレゼンテーションを聴講する機会もありました。



UQ の研究所訪問や UQ 学内での Q²PEC 参加学生の様子

また、プログラムでは、地元のエンジニア

リング企業の管理職の方々によるプレゼンテーションや、ブリスベン港およびオーストラリア屈指の研究機関であるオーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO) への現地訪問も行われました。

滞在1週目の金曜日には、九州大学の学生が、クイーンズランド大学の学生や職員に対しプレゼンテーションを行い、多くの関心を集めました。クイーンズランド大学は、九州大学の学生の皆様に感謝申し上げるとともに、今回のご滞在が学生の皆様にとって充実したものであったことを祈念しております。

UQ-KU 特別講義シリーズ

クイーンズランド大学機械鉱山工学部は、この度、九州大学大学院工学研究院航空宇宙工学部門の麻生茂教授をお迎えいたしました。

麻生教授は、クイーンズランド大学極超音速研究センター (Centre for Hypersonics) 所長である Richard Morgan 教授と対面され、研究や共同研究の可能性について話し合いを行いました。



麻生教授と Morgan 教授

また、極超音速研究センターのメンバーや航空工学科の学生は、麻生教授が滞在期間中に講演されたセミナーに参加しました。



クイーンズランド大学で講演される
麻生教授

9月22日に実施された本セミナー、「Studies on Reduction of Aerodynamic Heating in Hypersonic Flows and Development of Hybrid Rocket Propulsion with Multi-Section Swirl Injection Method for High Fuel Regression Rate」は、多くの人の関心を集め、好評を博しました。

UQ-KU プロジェクト MAJIT フォーラム



UQ MAJIT の学生を対象とした野北和宏
准教授ご講演の UQ-KU プロジェクト
フォーラムの参加者

野北和宏准教授は日本語通訳・翻訳修士課程（Master of Arts in Japanese Interpreting and Translation: MAJIT）を専攻する学生に向けて講演を行いました。MAJIT プログラムは英語と日本語両言語において高いレベルの言語能力トレーニングを提供すると共に、通訳・翻訳における論理的かつ実践的スキルの習得を目指します。

MAJIT フォーラムにおいて、野北准教授は日本の先端製造技術や、UQ-Japan Program for Industry Experience (UQ-JPIE) に関し講演を行いました。

UQ-JPIE は、John Chen 教授をはじめ九州大学工学研究院附属国際教育支援センターのチームによって企画されたプログラムであり、大きな成功を収めました。

UQ-KU プロジェクト講演シリーズ

8月8日から9日の間、野北和宏准教授は九州大学に招聘され、修士課程の学生に向けて6回の講義を行いました。講義では、金属凝固や電子機器用合金、エネルギー貯蔵材料、日豪共同研究などのテーマを扱いました。

2017年末には Jonathan Read 氏も九州大学を訪問し、例年通り、留学生を対象に工学倫理の講義を行う予定となっています。

Q₂PEC を体験して

この夏、私は Q₂PEC に参加し、約 6 週間ブリスベンに滞在しました。これまで、高校生の時に約 2 週間海外に滞在した経験はありましたが、オーストラリアを訪れるのは初めてのことであり、また、1か月以上にわたる長期間滞在となりました。このプログラムを通じてたくさんの素晴らしい経験を得ることができ、今回はその体験談をお伝えしたいと思います。



まず、ホストファミリーについてお話ししたいと思います。私のホストファミリーは、とても親切で陽気な方でした。課題や英語の授業について心配になってしまい、ストレスで気が滅入っている時も、温かくサポートし元気づけてくれました。そして、ジョークを言って笑わせてくれたり、ほっとした気持ちにさせてくれたり、あまり深く考えすぎないようにとアドバイスをしてくれました。ホストファミリーの方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、たくさん話しかけていただき、新しい単語も教えてくれました。宿題を手伝ってくれたり、我慢強く私の話も聞いてくれました。そのため、英語を練習する機会にも恵まれ、英語力を向上させることができました。また、面白い映画を教えてください、一緒に映画を見たりもしました。ホストファミリーのおかげでこの 6 週間を快適に過ごすことができました。

次に、午前中に ICTE で受講していた、5 週間の一般英語コースについてお話ししたいと思います。最初の数日間は正直なところ、あまり楽しむことができませんでした。私にとって、英語の授業を受けるのは初めてのことであり、英語だけで会話をするという状況にも慣れていなかったからです。しかし、フレンドリーな先生やクラスメイトのおかげで、徐々にそのような環境にも慣れ、残りの授業では楽しい時間を過ごすことができました。授業では、味覚から技術、嘘をつくときの表現など様々なテーマを扱

い、そのテーマに関連する単語を学習しました。先生方の教え方がとても分かりやすく、柔軟性に富んでいたため、常に興味を持って授業に臨むことができました。また、クラスメイトはコロンビアやチリ、中国、台湾など様々な国の学生が集まっており、それぞれが異なる意見、発音、リズムを持っています。そんなクラスメイトと英語で交流をすることは、貴重でかけがえのない経験となりました。英語を使ってクラスメイトとコミュニケーションを取る機会にも多く恵まれ、嬉しく思いました。



そして、午後はプレゼンテーションに関する講義を受け、質問に対する答え方や、質問に対してどのように対応し、どのように英語で効率的に発表をするかといった、実践的なスキルを多く学びました。そして、授業で学んだスキルを活かし、エコカーについてのプレゼンテーションを行いました。私たち工学部生にとって、自分の研究を世界の人々に向けて発信していくためには、プレゼンテーションが必要不可欠となります。そのため、このような授業はとても重要であると思いました。さらに、義肢や浄水に関するセミナーにも参加しました。義足を使用しての歩行がどれほど不便であるのか、そして汚水をろ過して上水を作ることの難しさを知り、興味深く感じました。

このプログラムを通して、海外へ行くことに対する自分の考え方が変化したことにも気づきました。このプログラムに参加する前は、海外へ行くことについてそれほど積極的ではありませんでした。しかし、異なる地域から来た学生と共に学び交流をした今は、彼らと英語でコミュニケーションを取ることが楽しいと思うようになりました。また、本プログラムを通じて、自分の言いたい事を相手に伝えるには、まだ自分の英語力は不十分であることにも気づきました。一生懸命英語を勉強し、英語力が向上すれば、海外の人に自分の思いを伝えることができ、また、互いをより良く理解することへと繋がるのだと思います。そして、このプログラムで得た経験こそが、今後も英語学習を継続していく私の強いモチベーションになるだろうと確信しています。

篠崎 航太郎

クイーンズランド大学体験記

「百聞は一見に如かず」、これほど私の感情をぴったりと表す言葉はありません。2017年度 Q²PEC プログラムを通して、私が日本にいた頃には想像も付かないほど素晴らしい経験を沢山させて頂きました。英語や工学だけでなく、様々な文化、考え方、ライフスタイルなどについて学ぶことができました。こうしたあらゆる側面に感銘を受けると同時に、「国際留学とはこういうことだ」と実感しました。

ラボツアーでは、日本とオーストラリアの研究事業の違いについて学びました。その中でも、鉱山研究に関しては特に驚きました。鉱山で使用される自動制御装置について学べたことは興味深いことでした。また、鉱山研究に利用される VR 技術においては、最新技術が如何に現実世界に役立っているのかについて知ることができました。また、機械鉱山工学部 (SoMME) の学生によるプレゼンテーションがとても印象的でした。機械工学の学生は運動学の知識を応用してものづくりを行うのに対し、私のような化学工学の学生は分子的特徴を用います。このような考え方の違いはとても面白いと思いました。



もちろん、温室効果ガスや人力飛行機など、他にも様々な興味深い研究について伺うことができました。日本では、大学の下級生がこのようなプレゼンテーションを聞く機会はないため、どのように研究が行われ、どのような産業の課題があるかなどについて学ぶ貴重な経験となりました。

休日は、UQ-JPIE の学生がブリスベンの様々な場所へ連れて行ってくれました。私のパディは、ローンパイン・コアラサンクチュアリを案内してくれました。初めてコアラやカンガルー、エミュに触れることができ感動しました。また、彼女の家で一晩お泊りもしました。彼女のお気に入りの映画を見たり、彼女の家族とお話したりすることができ、とても楽しかったです。オーストラリアの学生が普段どのように生活しているのかを知る素晴らしい機会でした。彼女と彼女の素敵な家族に出会うことができ、とても嬉しく思います。私が彼女を日本で案内した時より、沢山の大切な思い出を与えてくれました。また、ICTE で知り合った学生にも深い影響を受けました。クウェートから来た友人はとても優しく、毎回励まされました。特に、「自信を持って」と言われた時のことは忘れられません。普通の励ましの言葉に聞こえますが、彼女が苦勞してオーストラリアで英語を学び、大きな夢を追いかけられていることから、その言葉は私の心に深く響きました。彼女の考え方に強く影響されました。

また、素敵なホストファミリーと出会うことができとても幸せでした。ホストマザーは私を実の子供のように接してくださり、彼女の日常生活の習慣、ブリスベンの歴史など、様々なことを教えてくれました。ホストファザーは、私が新聞を読んでいるといつも、ニュースの背景知識を教えてくださいました。また、私がテクノロジーに興味を持っていることを知ると、テクノロジーに関する雑誌をくれました。一緒にホームステイをしていたマリアさんは、とても優しく思いやりのある女性でした。彼女は私が憧れる女性の一人です。ホストファミリーの温かい人柄や素晴らしいおもてなしがあったおかげで、ブリスベンでの生活を楽しむことができました。



一晩中話しても、今回の体験が如何に私に影響し、感銘を受けたのか説明できません。目を見張るようなオーストラリアの研究、UQ や ICTE の学生の方々、オーストラリア人の寛大なおもてなしは絶対に忘れません。この経験を通じて、私の人生は変わっていくのだらうと思います。

折橋 佳奈

詳細は本プログラムホームページをご覧ください。

<http://www.mechmining.uq.edu.au/uq-ku-project>